

指導資料



鹿児島県総合教育センター

外国語科（英語）第68号

—高等学校，特別支援学校対象—

平成22年10月発行

新学習指導要領を踏まえた学習指導の在り方 —高等学校外国語科（英語）—

新学習指導要領では、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について，自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し，「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう，中学校・高等学校を通じて，4技能を総合的に育成する指導を一層充実することが求められている。高等学校においては，「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする」コミュニケーション能力を育成することを目標としており，指導内容だけでなく，指導方法についてもこれまでになく踏み込んだ記述が見受けられる。

そこで，本稿では，新学習指導要領を踏まえた高等学校外国語科（英語）における学習指導の在り方について，具体例を通して考える。

1 英語で行うことを基本とする授業

「授業は英語で行うことを基本とする」こととは，教師が授業を英語で行うとともに，生徒も授業の中でできるだけ多く英語を使用することにより，英語による言語活動を行うことを授業の中心とすることである。つまり，訳読や和文英訳，文法指導が中心とならないように留意し，生徒が英語

に触れる機会を充実するとともに，授業を実際のコミュニケーションの場面とすることを意図している。また，指示のためのクラスルーム・イングリッシュだけではなく，例えば，精読を行う場合にも，題材の背景について説明したり，内容理解を助けたりする際に英語を通じて行うことが必要である。その際，生徒の表情を見ながら，生徒が分かるように，質問をしたり，やさしく言い換えたり，例を挙げたりしながら，授業を英語で進めていく。ただし，日本語を使った方が効率的かつ効果的な場合は，日本語を使うことがあってもよい。

次は，本文の内容を，和訳せずに英語で理解させることを意図した教師の発話の例である。

Teacher: Critics of television say that it makes people passive. What does critic mean?

Student A: 評論家

Teacher: Right. They say, "Television makes people passive." What do you think this means?

Students: ……

Teacher: OK. Look at the next sentence. We tend to believe what we see, and don't use any critical thinking or communication skills when we watch TV. What do you think of this sentence? Do

you believe what you see when you are watching TV? Do you see it critically or just accept it?

Student B: Well, I think I just accept it.

Student C: Yes. I just enjoy it, too.

Student D: My mother is sometimes angry with someone on TV, though.

Teacher: I see. Some people complain or say something critical to themselves, but anyway, it's true that we can't communicate with someone appearing on TV. We are passive while watching TV. Right?

Teacher: OK. Next sentence. The word "couch potato" refers to someone who sits in front of the television eating junk food. Well, what's the meaning of couch?

Student E: Sofa.

Teacher: Good. A long comfortable seat. Are you a couch potato? I hope you are not one at home. I mean I don't want you to be always watching TV eating something like potato chips on the sofa.

Lesson 3 Addicted to TV *~部分が本文中の英文 (MAINSTREAM English Course II 増進堂)

生徒が英語を使って積極的にコミュニケーションを図るようになるためには、教師が率先して英語を使うことが大切である。授業の導入部分で、教師のスマール・トークを常に入れるように心掛けるなど、生徒が英語に触れる機会をできる限り増やす努力をしたい。

2 言語活動と効果的に関連付けた文法指導

これまでの文法指導は、コミュニケーションとは切り離してなされることも少なくなかったことから、知識としてはもっているものの、実際には使うことができないという問題点がある。文構造の理解・定着を図るパターン・プラクティスやドリルのみに終始するのではなく、文法はコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、具体的

な言語の使用場面を設定した言語活動と効果的に関連付けて指導することが必要とされている。

例えば、過去完了進行形を学習する際、動詞の形や意味を説明して、ドリル等をやるだけではなく、実際にコミュニケーションの場面を設定し、自分で言葉を選んで練習させることが必要である。次は、教師が具体的な場面を提示し、生徒は想像力をはたらかせて理由を答えながら、言語活動の中で時制を学習する例である。

Teacher: I'm going to ask you a question. When I got home last night, my brother was asleep in the living room. What reasons can you think of to explain this situation? Talk in your group.

《あるグループで》

Student A: That's because he *was doing homework there.

Student B: Well, I think he had been watching a soccer game on TV.

Student C: Yes, well, I guess he had been waiting for his sister to come home.

教師は机間指導をしながら、"He had been doing homework there. Good guess!" のように正しく言い換える。「説明→問題演習」という流れではなく、言語活動の中で文法事項を活用させ、自分で間違いに気づき、理解を深めていくようにする。

3 4技能を統合的に活用させる言語活動

「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成することが求められている。特に、新学習指導要領における「コミュニケーション」科

目では、4技能を総合的に育成することをねらいとして内容を構成し、統合的な活動が行われることを意図している。

(1) 統合的な活動の定義

統合的な活動とは、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を互いに関連付けた活動のことをいう。

(2) 統合的な活動の意義

現実のコミュニケーションの場では、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」が単独で行われるのではなく、常にいくつかの技能が組み合わせられている。例えば、電話の場面では、こちらの用件を話し、相手の話を聞き、その内容をメモする。すなわち、この場面では「聞くこと」、「話すこと」、「書くこと」の三つの技能を統合的に活用しているわけである。このような実際の言語の使用に近い統合的な活動を設定し、それぞれの技能をコミュニケーションの中で使用させれば、各技能を個別に練習するよりも、それぞれの技能が相乗的に高められると考えられる。

(3) 統合的な活動のタイプ

岡，赤池，酒井（2004）は、4技能間の統合的な活動を六つのタイプに分けている。次は、その六つのタイプとそれぞれの概要を述べたものである。

① 聞くこと ↔ 話すこと
授業における生徒同士の対話練習、教師と生徒とのインタラクションをはじめ、ディベート、ディスカッションなどが挙げられる。また、聞いたものを自分の言葉で再現したり、聞いたこ

とに基づいて、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりすることなどである。

② 聞くこと → 読むこと
教科書を閉じて本文を聞き、その後読んで確認したり、ラジオ・テレビで聞いたニュースを新聞で読んだりすることなどである。

③ 聞くこと → 書くこと
教科書の本文を聞いて、聞き取れた内容をメモしたり、ディベートで相手の言ったことをメモしたりすることなどである。

④ 読むこと → 話すこと
教科書の本文を読んで得た情報や考えなどについて、まとめたことを発表したり、自分の意見を話したりすることなどである。

⑤ 書くこと → 話すこと
話す内容を箇条書きにしたりメモしたりして話したり、スピーチやスキットの原稿を書いて発表したりすることなどである。

⑥ 読むこと ↔ 書くこと
読んだものについての感想や意見を書いたり、手紙やメールを読んで、返事を書いたりすることなどである。

これらの六つのタイプを組み合わせた活動も考えられる。例えば、英文を読み（読むこと）、その内容をまとめ（書くこと）、発表する（話すこと）というように、三つの技能を統合した活動など様々な活動が考えられる。このような統合的な活動が、意図的、計画的、継続的に

行われることが期待される。

本時（2/2）の授業の展開例である。

(4) 4技能を統合的に活用させる実践例

次は、「書くこと」を中心としながら、
4技能を統合的に活用させる工夫をした

なお、和訳に頼らず、英語を理解させたり、文法事項を言語活動の中で活用させたりする場面も含んでいる。

過程	生徒の主な活動	JTEの役割	指導の重点				指導上の留意点
			L	S	R	W	
導入	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明を聞きながら、手紙文の内容を推測する。 <p>手紙での相談に自分なりの返事を書こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 手紙文に関する絵を見せながら、オーラル・イントロダクションを行う。 <p>手紙の差出人を具体的に設定し、親近感をもたせる。</p>	○				<ul style="list-style-type: none"> 和訳はしないで、生徒の顔や反応をよく見て、理解を確かめながら進める。理解していないような時は言い換えるなど配慮をする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 手紙文を読んで相談内容を理解する。 悩みの問題点をグループで話し合い、発表する。 個々に英語で返事を書く。 <p>生徒自身の体験等と結び付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 推敲をする。 お互いの手紙を読み、よい作品を選ぶ。 全体に発表する。 ※ 聞く側は発表者の評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導をしながら活動の様子を確認する。 spidergramを活用して、英語による表現の確認をさせる。 「助言する」表現や仮定法の活用を促す。 文のつながりや構成に気を付けて書くように指示する。 書き終わったら、推敲をさせる。 机間指導を行い、表現等について助言する。 間違うことを恐れず大きな声で話すように促す。 聞く側は発表者の手紙の内容を理解するように努めさせる。 			○		<ul style="list-style-type: none"> 言語活動を充実させるために、単元のテーマに関係する語を挙げさせる。生徒は日本語を使ってもよい。 本単元で学んだことの定着を図り、活用することができるように確認をさせる。 本単元で学んだ表現や文法事項を言語活動の中で活用させる。 クラスメートの発表をきちんと聞くようにさせる。
終末	<ul style="list-style-type: none"> 模範例を聞き、確認する。 自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 模範例を示す。 自己評価をさせる。 	○				<ul style="list-style-type: none"> 態度や英語面についてよかった点を具体的に挙げて意欲を高める

L. 25 "Can I ask for your advice?" (PRO-VISION English Writing 桐原書店)
(武岡台高等学校 宇都尚美教諭の実践例)

生徒が統合的に英語を使う場面を工夫、設定することで、次第に運用能力が高まることが期待できる。社会や経済のグローバル化が一層進み、社内公用語を英語に設定する企業が出てくるなど、社会で英語を使うことが珍しくない時代を迎えつつある。したがって、現在の高校生には英語でのコミュニケーション能力を育成することが、一層求められる。各学校においては、授業の改善を図り、英語

にたくさん触れることができる授業設計を行い、英語で言語活動を行うことを中心とした授業を展開することが必要である。

【参考文献】

- 1) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編』平成22年5月
- 2) 岡部幸枝・松本茂編著『新学習指導要領の展開』2010年、明治図書
- 3) 岡秀夫・赤池秀代・酒井志延[著]『「英語授業力」強化マニュアル』2004年 大修館書店
- 4) Jeremy Harmer *The Practice of English Language Teaching* FOURTH EDITION 2007 Longman

(教科教育研修課)